

世界中で盛り上がる Maker ムーブメントを体験！

「Maker Faire Tokyo 2012」出展者決定！注目の展示を紹介

(2012年12月1日、2日 日本科学未来館にて開催)

未来館とのコラボで巨大ロボ「クラタス」にも会える！

オライリー・ジャパン（本社：東京都新宿区／代表取締役：John Moore）は、2012年12月1日（土）、2日（日）の2日間、お台場の日本科学未来館で開催する「Maker Faire Tokyo 2012」の出展者を、Maker Faire Tokyo 2012 公式サイト（<http://makezine.jp/program/>）にて発表しました。本イベントには、テクノロジーを自由な発想で使いこなす「Maker」とその作品が多数集合。モノを作ることの未来を自由な発想で提示。約240組のMakerによる展示や、作品・部品の即売、ワークショップ、プレゼンテーション等、盛り沢山の内容を予定しています。

3Dプリンター、レーザーカッターなどを活用したパーソナルファブリケーションの普及や、自らの製作した作品の情報（動画、製作方法、回路図、ソフトウェアなど）をソーシャルメディアなどを通じて公開することが一般的になるにつれ、個人の製作する作品が、以前よりも複雑かつ高性能なものになっており、イノベーションの誕生が期待されています。

この度 Maker Faire Tokyo 2012 の会期中に、「日本科学未来館」（未来館）とのコラボレーションによって巨大ロボ「クラタス」の展示をすることが決定いたしました。

「クラタス」は水道橋重工が開発を行う、実際に人が乗って操縦することができる高さ4mのロボットです。2012年夏に発表されてから、日本の物づくりの未来のシンボルとして、国内外より多くの注目を集めています。Maker Faire Tokyo 2012 期間中には、クラタスの開発者によるデモンストレーションや試乗会（抽選による）も予定されています。

自分の手でモノを作り、その成果を多くの人と共有しようという「Maker ムーブメント」。そして、その日本における現状を実感できる「Maker Faire Tokyo 2012」に、一人でも多くの方にご来場いただきたく、メディアの皆様におかれましては、是非告知記事掲載、ならびにご取材いただければ幸いです。

■実施概要

- ・日 時：2012年12月1日（土）12:00～17:00、2日（日）10:00～17:00
- ・会 場：日本科学未来館（<http://www.miraikan.jst.go.jp/>）展示企画ゾーン（1階）他
東京都江東区青海2-3-6
- ・入場料：前売：大人1,000円、18歳以下500円
当日：大人1,500円、18歳以下700円（チケットはイープラスにて好評発売中）
※クラタスは日本科学未来館のシンボルゾーン（入館料不要）での展示となります。
（Maker Faire のチケットをご購入いただかなくとも会期中のクラタスの鑑賞は可能です）
- ・主 催：株式会社オライリー・ジャパン
- ・共 催：日本科学未来館、臨海副都心まちづくり協議会、東京臨海副都心グループ
- ・URL： <http://makezine.jp/>（出展者、協賛募集情報を含む最新情報を随時ご案内しています）

(2012年11月7日現在)

■お問い合わせ先

株式会社オライリー・ジャパン 担当：鹿野 (pr@makejapan.org)

TEL: 03-3356-5227 FAX: 03-3356-5261

■ Make Tokyo Meeting 来場者推移

第1回 (2008年 4月)	30組 (出展者)	/ 600名 (入場者)
第2回 (2008年 11月)	60組 (出展者)	/ 1,200名 (入場者)
第3回 (2009年 5月)	90組 (出展者)	/ 2,400名 (入場者)
第4回 (2009年 11月)	140組 (出展者)	/ 4,000名 (入場者)
第5回 (2010年 5月)	200組 (出展者)	/ 7,200名 (入場者)
第6回 (2010年 11月)	210組 (出展者)	/ 8,000名 (入場者)
第7回 (2011年 11月)	260組 (出展者)	/ 12,000名 (入場者)

2010年9月には岐阜県大垣市で初の東京以外でのイベント Make: Ogaki Meeting を開催。同イベントは2012年8月にも開催され、出展者142組、2日間で来場者数5,000名を数え、大好評を得ました。

今後、「地方版 Maker Faire」である「Mini Maker Faire」の全国展開も予定されています(2013年以降)。

■ 取材についてのお願い

・事前取材のアレンジにつきまして

出展者、Makerムーブメントを支える人々、オライリー・ジャパン関係者の取材をアレンジ致します。

pr@makejapan.org までお気軽にご相談ください。

・当日の取材につきまして

Maker Faire Tokyo2012の取材を希望されるメディアの方は、事前に以下のURLよりお申込みください。

<http://makezine.jp/press/>

ご来場の際はプレス受付までお立ち寄りください。

プレスタグを受領いただいた後は、場内をご自由に取材していただけます。

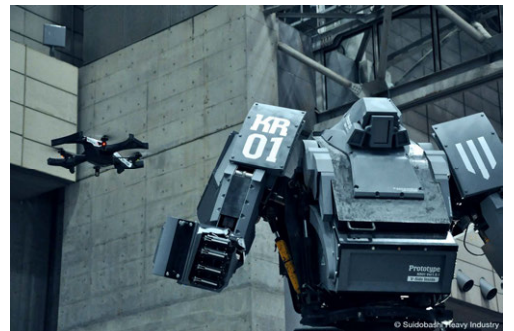
掲載誌は、オライリー・ジャパンまでお送りいただけますと幸いです。

(ウェブサイトの場合は記事のURLをお知らせください)。

※イベントの取材について

撮影の際には、それぞれの出展者の許諾を得てからとしてください。

プライバシーにご配慮いただき、出展者、来場者が気持ちよくイベントに参加できるようにご協力をお願いいたします。



参考資料① 注目の出展者紹介

スマホにつなげるガイガーカウンター、勝手に入るゴミ箱、小型ヘリコプター
3Dプリンターからロボット、電子手芸、クラフトまで「つくる」の最先端がここにある
全出展者の情報は→<http://makezine.jp/program/>



RADIATION-WATCHプロジェクト

本プロジェクトは、安価に誰でも入手できるスマートフォン接続型の線量計を普及させ、市民レベルの放射線監視ネットワークを構築することを目的とした非営利プロジェクトです。宮城県石巻市のメーカーを中心として、日本国内のハード・ソフトエンジニアや大学研究者、また海外の専門家によって支えられています。MFT2012ではその「ポケットガイガー」全シリーズの特別販売会を行います。



JapanDrones

個人用ロボットヘリコプター(UAV)のソフトウェア開発をメインに取り組んでいる企業。アメリカの3Dロボティクス社の製品の輸入販売等も行っています。ラジコン用のヘリコプターやクアッドコプターなどに小さなコンピューターやGPSを内蔵して誰でも簡単にロボットヘリコプターを飛ばすことができるというものです。ロボットヘリは、遊びだけでなく、空中写真撮影、ロボット工学の研究、災害調査などの用途が期待されています。



みのくら

エンジニアのみのくらさんが趣味で製作したロボットや未来家電の紹介。自動照準のエアガン、勝手に入るゴミ箱などを展示予定。勝手に入るゴミ箱は、2012年の夏に動画サイトで公開されてから、ニコニコ動画、Youtubeそれぞれで100万再生を突破しています。



Autodesk

3Dデザインツールを提供するオートデスク社が、誰でも簡単に使えるデザインツール123D、SketchBookなどのプレゼンテーションを行います。オートデスクのツールを使いその場でデザインし、3Dプリンターで実物を作りあげます。



(株) ホットプロシード

福岡にある国内唯一のパーソナル3Dプリンターメーカー。今年新発売した10万円台のパーソナル3Dプリンター「Blade-1」と10万円台のパーソナルレーザー加工機「Blaster」の展示・デモンストレーションを実施。



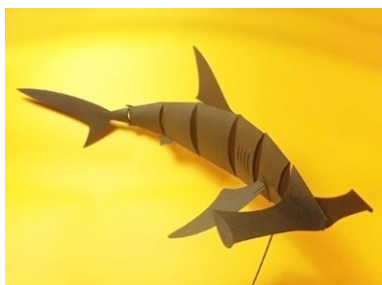
ヒゲキタ

直径5.6mのドームと恒星数5800個のピンホール式プラネタリウム投映機。赤青メガネを使った3D映像投映機で鑑賞する星空と3D映像は感動せずにはられない美しさです。



Eyes, JAPAN Co. Ltd.

「FabCoffee」は、誰でも簡単に美しいラテアートを作ることができる 3D プリンタ。コーヒーのミルクフォームの上にユーザーが選んだ写真やイメージを描くことが可能です。



工房 Emerge+ & BDP

レーザー加工サービスを提供しています。Maker Faire Tokyo 2012 会場では商品の直販と、レーザー加工に関する相談窓口を開設します。また「泳ぐサメ」ペーパーモビルを作る簡易ワークショップも行う予定です。プレゼンテーションではレーザー加工機を使ったデジタルファブリケーションの事例を発表予定です。



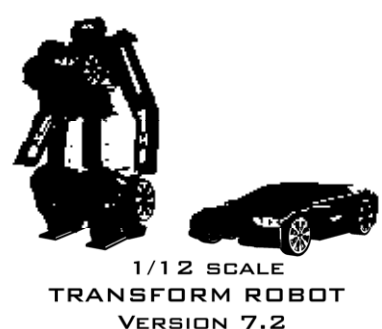
羽ばたき飛行機製作工房

小型羽ばたき飛行機専門に研究開発を行う。鳥、コウモリ、昆虫など飛行生物の模倣から、自然界には見られない羽ばたきメカニズムの創造まで、実際に羽ばたいて飛べるなら何でもありの精神で、ユニークなデザインの機体を製作している。



かわうそ兄弟商會

日本伝統の本藍染めの作品を制作。藍染めで文様をつくる方法に、絞り染め、板締め、ろうけつ、型染め、などがあるが、かわうそ兄弟商會では「型染め」で、オリジナルのデザインを行う。今回はおもに素数や数式、プログラミング言語などをモチーフとした理工系デザインの型染めを紹介。



Brave Robotics

変形、合体するロボット（勇者ロボ）を目指して活動。現状では 1/12 サイズでビークル形態からロボット形態に完全自動変形し、歩行や車輪による移動を実現した。1/1 サイズで自分が乗れて、超 AI によって自律動作や会話ができる変形・合体ロボットを目指して活動中。

参考資料② クラタスについて



水道橋重エプロジェクト (<http://suidobashijuko.jp/>) は、アーティスト倉田光吾郎が自身の「巨大ロボに乗りたい」という夢を叶えるべく、2010年6月にスタートしたものである。途中、ロボット制御エンジニアの吉崎航が加わり、本体製作を倉田が、制御を吉崎が担当し、二人のコラボレーションプロジェクトとして進化した。

約2年の製作を経て、2012年7月末に行われた「ワンフェス2012夏」において、数千人の前で「クラタス」のお披露目デモンストレーションを行い、Yahoo!トピックスを始め、国内外のメディアやSNS等で多大な反響を得た。

現在、海外へのさらなる波及を目指し、クラタスのブラッシュアップに取り組んでいる。

倉田光吾郎 Kurata Kogoro

東京都生まれ。現代美術家。

1973年 東京都生まれ。幼少の頃からプラモデル製作に熱中し、作ることの喜びを知る。1991年、『FROM-A-THE-ART』で佳作を受賞。

その後、調香師である島崎直樹の『香り展』のオブジェを製作し、作家として活動を開始。1999年、新国立劇場での『フィガロの結婚』で舞台装置制作を担当。ベルリンで1年間の休養を経て、2005年「1/1 スコープドック」を制作。2007年に中目黒「聖林間」、2010年「カストロール1号」など分野にとられない活動を続けている。

吉崎航 Yoshizaki Wataru

奈良先端大学 情報科学研究科。

独立行政法人産業技術総合研究所 技術スタッフ。

1985年 山口県生まれ。幼少よりロボット作りに興味を持ち大学院まで一貫してロボット製作に携わる。2009年、未踏プロジェクトに採択されたことをきっかけに、人型ロボット用インターフェイスソフト「V-Sido」を開発。2010年、経産省からスーパークリエイタに認定。同年、Infinity Venture Summit 2010 spring においてグランプリを受賞。

※クラタスのデモンストレーションは、機材の都合により実施されない場合がございます。ご了承ください。